



一粒の麦

ひとつぶのむぎ



エデンの園
第308号



劇:プレゼントあったよ♪

サンタ登場

まつり

美味しくいただきました

ドラムセッション

聖書のことば

神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行ないなさい。

(聖書 ビリビ人への手紙2章13～14節)

■ 牛 歩 ■

理事長 川越 瑞枝

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

新しい年が、平和で、利用者とそのご家族をはじめ、すべての方々お一人お一人のささやかな幸せが守られるようにと願いつつ迎えました。

エデンの園に出勤しない日は300坪ちょっとの畑に出かけるのですが、まずひとまわりして、今日やるべき作業の優先順位を決めます。一人でこなせる作業はしれているので、夏場はすぐ草に乗っ取られてしまい、祖父がいつも言っていた言葉を思い出します。「いい百姓は草が生えたらすぐ取る。普通の百姓は草が伸びたら取る。がんだれ(悪い)百姓は伸びても取らん。」自分はどれにも当てはまらないなあーと思いながら、あちこちに積上げた草の枯れ具合を見て回り、枯れて小さくなった草山は近くの草山と合体させ、堆肥づくりの準備にとりかかります。オーガニック(有機無農薬)の野菜づくりがしたいと長い間土づくりに試行錯誤して来たのですが、手間ひまをかけられないので、山積みの草に、糠(ぬか)や他の有機物、堆肥と混ぜて発酵させ、手作りの肥料にしているのです。それだけで薬膳野菜や青野菜、芋類、根菜などの栽培してみましたが、殺虫剤や化成肥料は一切使わないので、薬膳野菜を除いて思うように収穫はなく、ベテランには「肥料不足ではないか」と言われ、市販の有機堆肥を足してみたりしながら、やっと家で使う野菜をまかなえるようになったところです。自己流なりに循環型農業のサイクルにこだわってもっと収穫が上げられないかと思っているところです。

相変わらずキャベツはレースのドレスだし、テントウ虫に挨拶をしたり、沢山のミミズと話をしながらの作業ですが、芋類の収穫をし、本丸、二の丸(小屋)にそれらを納めてしまうついで

「インマヌエル・ファーム」に最敬礼をしたくなります。

創立から40年を迎えたエデンの園の歩みに携わって下さった沢山の皆さまに感謝しながら、それを土台にして今年は森永、綾町にも新しい事業の立ち上げを進めております。高齢化、重度化してきている利用者へのきめ細かいニーズに応えつつ、地域のニーズにも沿える事業展開になると期待しているところです。

「今日も利用者が笑顔で待っている!」と思いながら通勤するのは本当に嬉しく、1時間の道のりを遠いと思う事はありません。入所による支援を必要とされてスタートしましたが、今や多機能なサービスを選んで頂けるように、様々な資格や技能をもった専門職員が就職し、互いの役割を活かしあい、高め合って利用者への支援を更に質の高いものにしていきたいと切磋琢磨しています。私もこの「幸せ配達人」の一人として頑張りたいと思います。



麦わらぼうしでの書道教室のようす